

特集にあたって

福田正人

本特集『精神医療・精神医学の組織文化のパラダイムシフト』は、2019年に日本精神神経学会に設けられた「精神医学・精神医療に関するパラダイムシフト調査班」の先駆的な取り組みに学び見習いたいと希望して構成したものです。

精神医療は当事者や家族に、精神医学は若手や学問に、よりよい変化をもたらすことを目指しています。そうした治療・教育・研究に携わる専門職の組織には、精神機能や精神疾患の特徴に対応した「組織文化」があります。それは、長年の経験に基づいて自然に形作られたものもありますし、また組織に携わる人々の考えや指導的な理念に基づいて意識的に作りあげられたものもあります。

精神医療・精神医学における従来の組織文化にパラダイムシフトを求めているのは、当事者の役割についての考え方の発展です。個々の診療場面における共同意志決定 (shared decision making) のみでなく、精神医療や精神医学のあり方そのものについての共同創造 (co-production) や、それに基づく組織変革 (organizational change) を通じて、精神医療・精神医学において当事者が中心となることが当然と考えられるようになってきました。当事者や若手や学問を「変える」だけでなく、治療者や教育者や研究者自身が「変わる」ことが求められており、そうした変化は「組織文化」の展開として目に見えるようになります。

そこで、「組織文化」「パラダイムシフト」「組織変革」をキーワードに、医療・教育・研究のさまざまな分野や組織で先進的な取り組みを進めている専門家に、その経験や教訓や困難をまとめていただき、新しい時代の精神医療・精神医学を展望する特集を企画しました。今の時代に「パラダイムシフト」と受け止められていることは、次の時代には常識になっていきます。そうした「未来のあたり前」の積み重ねが、精神医療・精神医学の進歩を支えていくと考えられます。

この特集が、読者の皆さまにとって「未来のあたり前」の手がかりとなることを、期待いたします。

群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学 (〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22)